



全日病 S-QUE 看護師特定行為研修

医療安全学／特定行為実践

共通科目



5.②特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ

演習（1）

岡山大学 保健学研究科 臨床応用看護学領域

急性重症患者看護専門看護師 / 特定行為実践看護師

北別府孝輔 氏

医療安全学／特定行為実践

特定行為の実践におけるアセスメント、
仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ
演習

岡山大学 保健学研究科 臨床応用看護学領域 助教
急性重症患者看護専門看護師 / 特定行為実践看護師
北別府孝輔

本日の内容

- ・ 特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ。

本日の学習目標

1. 特定行為実践過程の構造を理解したうえで、自身の分析を振り返ることができる。
2. 演習事例をもとに実践を言語化・記述することで、自身の分析を客観的に見る視点をもつことができる。
3. 指導者からのフィードバックを参考に、総合的な振り返りを行い、これからの看護実践の課題を見出すことができる

事例①（要約）

<事例紹介>

- 年齢：70歳 性別：男性 身長：165cm
- 疾患：食道がん
- 既往歴：陳旧性心筋梗塞（#6 PCI歴あり、ステント留置、EF：40%）、COPD（%VC：78%、FEV1.0%：48.0%）
- アレルギー：なし
- 病歴：2か月前から食事時の喉のつかえ、胸苦しさなどを自覚していた。近医受診し、検査したところ食道がんが疑われ当院外科紹介となる。精査の結果、胸部食道がんの診断で胸腔鏡下食道胃亜全摘+リンパ節郭清手術予定となる。長時間手術であり、本日手術後に人工呼吸器装着のままICU入室となった。
- 本日は術後3日目です。人工呼吸器管理中の患者を受けもつ看護師として、アセスメントと改善に向けた介入を検討してください。

演習の進め方

1. 演習ワークシートに沿って、以下の内容を個人で記述してください（**25分**）。
 - すべての事例情報の中で気になるポイントを示す（下線でもマーカーでも良いので事例に直接記す）
 - 患者の観察・評価（注意すべき状況やデータの観察項目、内容と評価の理由）
 - 患者が抱える問題点における臨床判断（判断理由含む）
 - 最善の行動の選択と実装（技能だけでなく多職種連携、調整なども含む）
- ※事例において学習が必要な情報に関しては、適宜調べながら行ってください。

演習の進め方

2. 特定行為研修受講生全員で、それぞれの分析や必要と思われる看護介入・多職種協働を共有し、それぞれに不足していた視点を補ってください（**10分**）。
3. 当該事例において介入が必要になると考えられる特定行為は何か、理由も含めてディスカッションしてください（**10分**）。
4. 指導者からのフィードバックを受け、事例についての総合的な振り返りを行ってください（**10分**）。